



理事長コラム  
こぶしの会  
10周年を迎えて②

就労移行支援 すたあと  
就職内定!

就労継続B型 ここに  
ここに市開催!

生活介護  
クッキー・配達班紹介

仲間自治会  
震災カンパ

居宅支援  
かたつむり

こっからの商品が買えるお店  
ここに市

東日本大震災  
支援活動報告

福島・南相馬市

韓国スマイルツアーズ

バザー用品ご提供下さい  
編集後記



▲個人的なパフォーマンスが人気の  
"NANTA"を見ました。

景福宮では、民族衣装を着て  
▼記念撮影!



▲本場の冷めんは細くて長い!  
店員さんがハサミで切ってくれました。

# Column

## こぶしの会10周年を迎えて (その2)

社会福祉法人こぶしの会 理事長 藤井 正紀

今回は法人設立の際の大きな問題であった資金づくりにまつわる事を書いておきます。前回、「施設規模については資金計画の上からすんなりと決まりました」と書きましたがその意味と対応の問題を当時の親の皆さんの意見を中心に記しておきます。

当時の親たちは、「入所施設の建設」希望が圧倒的でした。かすがやのぞみの家への通所でそれなりの給料をもらっていましたが、毎日の暮らしは一定の目途がついていました。しかし親が死んだ後の子供たちの暮らしぶりには大きな不安を抱いていました。その不安に答えてくれるのは「こぶしの会」しか無かったのです。親たちがすんなり通所の授産施設に同意されたのには二つの理由がありました。

一つは資金面の理由です。こっからの計画には総額約6千万円以上の自己資金計画でしたが、同じ規模の入所施設になると3倍以上の2億円近くの自己資金が必要で、しかも場所も山間地区で、自宅から遠く離れることになる等、入所施設の建設は無理でした。しかし6千万円の資金計画でも大変なことで、両作業所、一般カンパと無利子の借入金、販売やその他で賄うことを決め、これを親やこぶしの会が一丸となって推進することになりました。また当時は、親は通所で100万~200万円、入所で500~600万円の寄付をするのが一般的でした。これをどうするかの問題も重要でした。親の中には100万円程度は仕方がないという方から生活が苦しく寄付なんて無理だという両極端の意見がありました。結局、全員から一人30万円を無利子で貸してもらい10年後に障害者が自立するために返すという「自立支

援金」という方式を考えつき、約一千万円を預かりました。

しかし、数名の方はこれも難しいことから、障害者本人が毎月の給料から2~3千円ずつ積み立て、約2~3年間かけて納入しました。こぶしの会10周年を迎えて今年でこのお金も全員に返すことができ、本当に全員で建設してきたことを改めて思い出されます。

もう一つの理由は、グループホーム（現在ではケアホーム）問題です。入所施設を望んでいた親に通所でも良いのではと思わせたのはグループホーム制度の活用でした。

当時、通所施設ではこの制度は利用できませんでした。したがってならやま会の名前を借りてやっとホームを開所しましたが、これには家賃のほかに年間数十万円の借り賃を入所施設に支払ってのものでした。しかもこの制度は障害者の介護につかれる親のレスパイト（休養）として実現させたものであることを、繰り返し強調した記憶があります。

まだ実態もわからないこの制度に親たちが未来を展望できたのは、地域にホームを作り、通所施設とグループホームと自宅の三者が協力して障害者のケアをするという方針が理解できたためでしょう。したがって、「平日の日中は仕事し、夜は自宅やグループホームで、土日は自宅で家族と過ごす」という生活スタイルが入所施設とは違った新しいスタイルとして親や仲間にも支持され、それが現在まで継続されています。そういう意味では我々は共同して未来を切り開いてきたともいえるのではないかと思います。

# Column

大手回転すしのチェーン店が、奈良県下の全店舗において障害者雇用を進めることになりました。すたあとから仲間2名が柳本にある店舗に5日間実習に行きました。

徹底した衛生管理の下、えびの皮むきやマグロの刺身を切ったり、ホタテに衣をつけたりという下ごしらえ食器あらいなど、一度に30人ぐらいの方と共に目の回る忙しさの中仕事をしました。お昼ごはんも取る時間がないぐらいのあわただしさの中で働く2人は、とても頼もしく見えました。

実習最終日、採用したいということを店長さんからお話いただきました。

8月のすたあとは暑い日をぬって、県庁の屋上展望台にある芝生の草刈を2日にわたって行いました。大仏殿、興福寺を一望する視界の広がりの中気持ちよく作業をしました。

また、大安寺西祭りで、ジュースやフランクフルトの販売のお手伝いをさせていただきました。夜遅くまで、家族会の皆さんと一致団結してお店を盛り上げました。

(島 耕治)

## 就職内定! がんばってます。



## 就労継続B型

# Starting work continuance B type ここに



## ここに市開催!

ここには毎週水曜日の10時30分から15時まで、「ここに市」という名前で販売会を行っています。近隣にスーパーが無く、買い物に不便を感じているという地域の方の声をきっかけにオープンしました。

ここに市では奈良市近郊の農家や農業をされている他施設から直接仕入れた野菜やお米を販売しています。安くておいしいと好評です。その他に、こっからのパンや豆腐、近隣の事業所から味噌や卵、お茶や調味料なども仕入れて販売をしています。近い将来には施設内で惣菜の製造も行い、その販売もしていく予定です。



また、買い物に来てくださったお客様にゆっくりしていただこうと、休憩スペースを設け、無料のお茶サービスを行っています。お客様同士、仲間や職員との会話を楽しみに、毎週来てくださる方もおられます。お客様の数はまだそんなに多くはありませんが、地域の方が週1回のここに市での買い物やおしゃべりを楽しみにしていただいている、その中で仲間たちがそれぞれの得意な仕事で頑張っている、そんなここに市。ぜひ一度、いえ何度でもお越しください。(新谷 和博)

### 難しい仕事への挑戦…



クッキーはいたつはん  
きずな（配達先の店名）とか  
ふくしセンター（販売）に  
いっています  
ひるからクッキーでチョコ  
レートとプレーンをつくって  
います。  
デザートにしています。  
これからクッキーではいたつ  
と  
がんばります。

クッキー・はいたつはん  
きずな（配達先の店名）とか  
ふくしセンター（販売）に  
いっています  
ひるからクッキーでチョコ  
レートとプレーンをつくって  
います。  
デザートにしています。  
これからクッキーではいたつ  
と  
がんばります。

6月に新しくできたクッキー・配達班です。皆さまにご愛顧いただいているクッキーの形成と配達・販売を仕事の柱としています。

仲間のほとんどは、これまで活動班や紙すき班、作業班で働く力を育ててきました。そして、今年度、これまでの軽作業や配達をベースに、より難しい仕事へ挑戦しています。扱う商品が食品になり、配達・販売は、これまでのような納品だけでなく伝票のやり取りやお金の計算、接客を伴います。みんなががんばっています。

（川野 美幸）

## な か ま 自 治 会

### 見て見ぬふりできへん



仲間自治会では、大きなテーマとして時間をかけて「震災カンパ」について話をしてきました。

福島に支援に行っていた職員より、街の様子、障害のある人達が作業所に行きたくても作業所がつぶれて行けなくなってしまい、とてもしんどい思いをしている仲間がたくさんいるという話、やっと作業所が再開しても仕事がなく給料が出せるかどうかかわからず困っている話、など色々な被災地の様子を聞きました。被害を受けなかったところでは、時がたつにつれて大震災の記憶が薄れていっていますが、被災地では当たり前の、普通の生活を送れるようになるまでにはまだまだ支援が必要です。ニュースではあまり知ることができない被災地での障害のある人たちの今の様子を聞いて自治会でも何か出来ないかと話し合われました。みんなからの話し合いでは「カンパを集めよう!」「でもカンパ出す余裕がない人はどうするの?」「被災地の写真を見て見て見ぬふりもできへん。」「困ってる人を助けてあげたい。そうせんと自分達も困ったときに助けてもらわれへんで。」「自治会から出す?」「でもカンパって自分の財布から出すから意味があるんちゃう?」「難しいなあ。」と色々意見が出ました。何度も話し合った結果、口頭での説明と合わせて仲間全員にお知らせを自分達で作ってカンパのお願いをすることに決まりました。近々お知らせが完成して、仲間の手元に届くと思います。自治会役員が時間をかけて話し合い、一生懸命作ったお知らせです。

（竹田 悦子）

かたつむりは、ショートステイ（宿泊・日帰り）専門の事業所です。利用頻度は様々で、週数回利用の方から月1回利用の方まで、みなさんのライフスタイルに合わせて利用していただいています。

かたつむりでは、仕事が終わってからの時間をのんびりと過ごしています。絵を描いて過ごしたり、ミニカーで遊んだり、他の方とお茶をしながらお話ししたり…とみなさん思い思いの過ごし方をされています。他にもかたつむりでの楽しみの一つとして夕食があり、「外食の日」と「調理の日」があります。外食が楽しみでかたつむりに来られている方も多く、みなさん本当にうれしそうです。調理の日は、みんなで材料の買出しへ行った後、かたつむりで調理をしています。みんなで協力しながら楽しく作った夕食なのでとてもおいしいです。

このような形で、日々マイペースにのんびりと過ごしているかたつむりですが、この6月で無事に1周年を迎えることができました。今後ともよろしく願いいたします。  
（池谷 早苗）



こっからの商品が <sup>響える</sup> **6** お店を紹介します

## 食の店 <sup>かづ</sup> 佳津



住 所 / 〒630-8365 奈良市下御門町3 2  
(下御門商店街)「町屋空間内」  
電 話 / 090-4495-1945  
営業時間 / 11:00 ~ 20:00  
定 休 日 / 毎週木曜日(月1回第3又は第4水曜日)

今年の8月にオープンしたばかりの「おそうざい」  
「昼・夕ごはん」のお店です。

旬の食材を使った家庭料理で、安全でおいしいはもちろん、日替わりランチは、ワンコインで食べられる安さも魅力です。実はオーナーの宮脇さんとは作業所時代からのお付き合いで、色んなイベントで一緒させてもらっています。こっからの豆腐も食材に使っていただき、お客様から大変好評だとのこと。店内では、ここへのコンフィチュールも販売していただいております。

車の場合は駐車場はありませんので近くのパーキングをご利用下さい。

# 東日本大震災支援活動報告(福島・南相馬市)



▲津波被害にあった真野小学校  
3.11大震災の日から時間が止まっています。  
▼あの日は卒業式の7日前でした。



ほっと悠MSの昼休み ▶  
「小高太鼓」に興じる仲間。  
彼の家がある小高は警戒区域。  
お祭りは中止されました。

8月7日から1週間、2度目の南相馬支援に入りました。4月に初めて入ったときは、物流も十分回復していない中で、在宅重度障害者の訪問調査を行い、避難生活の矛盾をありありと感じましたが、今回は震災から5ヶ月経ち、事業所再開にむけての支援が中心でした。

派遣された「ほっと悠MS」は、精神の事業所ですが、被災したあらゆる種別の障害者が受け入れられ、狭い室内に35人がひしめき合って仕事する状況。支援期間中も、通所希望者が毎日のように相談に訪れ、利用者自身の生活相談も持ち込まれ、職員は息つく暇もありません。原発の影響から若い職員が次々離職し(6事業所職員30人だったのが、3人まで減)全国からの支援員が1週間交代で入ってなんとか現場を回しています。

実践上色々制約はありますが、それでも、仲間たちは元気に通い、しんどさを時にはぶつけながらもアルミ缶回収、下請け作業などを心の拠所に頑張っていました。休み時間に聞か借り上げ住宅2間での暮らし、不便な仮設住宅のこと、健康や、将来の不安等々改めて被災地の深刻な実態を知ることとなりました。

また、原発から10kmのところにあった双葉町「さくら」が新たに二本松市で事業再開。暑い中、除染のための土の入れ替え、市外各地に散らばる避難所や仮設住宅を回っての仲間送迎に、支援チームは汗を流し、1週間の支援を終えました。

JDF(日本障害フォーラム)被災地障がい者支援センターふくしまを通じて、この後もこぶしの会から4人目の人的派遣がおこなわれました。また、『きょうされん災害支援募金』(目標1億円)が現在650万円を超え、その第2次助成を未加盟の事業所も含め被災3県で行いました。復興への息長い支援のために、引き続き募金、被災地作業所商品購買へのご協力をよろしくお願いします。

(小針 康子)



▲3カ月海水が引かなかった烏崎。  
流されつづれた車が異臭を放ってつみあげられています。

## 震災支援金を下さった方々

こぶし通信No.31で「東日本大震災支援金」のご協力を呼びかけました。お寄せいただいた支援金は、平成23年9月30日現在で36,000円となりました。

ご協力いただきました支援金は、『きょうされん自然災害支援基金』を通じて被災地の障害のある人やその家族、作業所や施設へ届けます。引き続き支援金を受け付けています。ご協力をよろしくお願いいたします。

〈ありがとうございました〉

園部 典子・寺下 隆喜代  
谷井 まち子・東田 喜久見  
長谷川 信子・吉田 佑子  
宮城 恭子・水越 洋  
(敬称略)



# 韓国スマイルツアー

2011. 09. 21~23



10周年の記念行事の1つ、韓国旅行には、仲間の有志が11名集まりました。

打ち合わせを重ね、日程から持ち物までを少しずつ確認していきました。この旅行の特徴は、仲間が主体的に会議や準備に関わるという事です。心配ごとが多々あったことと思いますが、それでもあたたかく見守り、送り出してくださった家族の皆さんには、改めて感謝したいと思います。

さて、9月21日は台風が接近し、暴風雨の中での出発となりました。無事フライトできることが分かり、ホッとしたのも束の間。横をみると、離陸の恐怖に顔がこわばっている仲間が数



名…。

飛行機の疲れにも負けず、夜は世界的にも有名な舞台、「NANTA」を見ました。

2日目は景福宮、仁寺洞、夜の遊覧船など、盛りだくさんの1日となりました。キムチ、焼き肉、海鮮鍋など、韓国を代表する料理も満喫しました。

大きな荷物を抱えて日本に帰ってきた11名の後ろ姿には、大きな自信が満ち溢れていました。

## こっから祭のバザー用品ご提供下さい

- 衣料品（新品に限る） ●食器・台所用品 ●洗剤、スポンジ、タワシ、フキン ●タオル・シーツ類
- 石鹸類 ●日用雑貨 ●スポーツ用品 ●ベビー用品 ●文具 ●おもちゃ ●絵本 ●自転車
- 家電（新品） ●その他 ●景品・在庫処分品 歓迎します。

バザー収益の一部とお寄せいただいた支援金は、

「きょうされん自然災害支援基金」を通じて被災地の施設や障害のある人たちへお届けします。

《受付期間》9月1日~11月4日まで

## 編集後記

こぶしの会の新しいパンフレットが完成しました。この場所から私たちの夢や願いが生まれ育ち、暮らしが豊かになっていくように「こっから」と名づけられた一つの砦が立ち上がって10年。その名の通りに、今では日中の働く場（3ヶ所）、夕方や夜間、余暇や生活体験など地域生活を支える支援（6事業）、暮らしの場（2ヶ所）と活動の場は拡がりました。

どの事業も、採算を検討する前にその時々で必要に駆られ始めたもので、一時は継続が困難となり閉鎖寸前にまで追い込まれた事業もありました。さらに障害者福祉においては、措置制度から障害者自立支援法の成立と廃案という激動の10年でしたが、ピンチを乗り越え、プレずにやって来れたのも、「仲間が主人公」の理念があったから。この思いを大切に次の10年に向かって力を合わせていきます。これからも暖かい応援をよろしくお願いいたします。（古木 一夫）

# 設立10周年感謝祭&東日本大震災復興応援イベント

障害者支援事業所

## コミュニティから

第10回



# 2011 11月6日(日)

朝10時~4時まで  
(雨天決行)



## リサイクル バザー開催

模擬店も多数開店

### ステージ

- ・大衆ソウルシンガー インディ
- ・都南中学吹奏楽部
- ・アゴラ太鼓
- ・市川道場
- ・風船パフォーマンス 石田さん
- ・OTO-NEKO
- ・こっから演舞隊

### 特別企画

- ・「おいしい応援」被災地復興物産展
- ・パネル展示&メッセージ寄せ書きコーナー
- ・被災地障害者施設支援募金

### 体験コーナー

- ・からくりおもちゃ教室  
～「紙つばめ」をつくろう!～  
13:00~15:00  
(NPO法人からくりおもちゃ塾 奈良町)



### その他

- ・健康チェック・焼きたてパン販売
- ・とうふ工房新商品発売!!
- ・クイックマッサージ

### 来場記念大抽選会

抽選受付: 2時30分まで  
抽選会: 3時から

- ・Nintendo 3DS
- ・ロボットクリーナー
- ・ネスカフェ ドルチェグスト
- ・電気ケトル
- ・ヘアアイロン その他多数!!

■当日は駐車場に限りがあります。  
公共交通機関をご利用下さい。



こちらも  
ご覧ください

<http://kokkara.jp/>

・こっからネットショップ  
・こっから活動ブログ  
・こっからニュースブログもお楽しみ下さい。